



日本の代表的な間取である二間続きの和室の南西の角部分です、この場所は壁がほとんどなく致命的といえるほど家の中では弱い部分となっています。又この部分に壁を造る事は美観において致命的ともいえます、そこでいかに美観を損ねることなくこの場所に補強壁を造るか、試行錯誤の結果障子の内側に壁を取り付けてみました、これにより障子と欄間障子は既存のまま使うことが出来、廊下側からの景観は今までと変わりません、部屋から見たら新しい壁が見えますがこれはもう丈夫さの証と理解して下さい。耐震の壁と減震装置を取り付け左官壁風に仕上げました。

# 地震力を吸収する考え方

住夢家の



耐震工事①

6年前に住夢家事務所に実験的に取り付けた減震装置です。家に働く地震の力に立ち向かうのではなく受け入れて少しづつ逃がしてあげるような怒って立ちかって来る人をなだめながら静めるような、こんな表現が分かりやすいでしょうか名付けて「減震くん」といいます。

自動車の車軸にパネと一緒に取り付けられているダンパーと同じ原理で地震の周波と家の持っている周波が同調するのを未然に防ぐ効果をこの装置は発揮します。



平成十九年七月に渡辺様邸に取り付けた減震装置です。既存の外壁の上にそのまま取り付けことが出来るので雨の進入の心配もなく簡単に取り付けることができます。この建物は耐震工事をしなくても地震には十分耐えられる建物でした、しかし渡辺様は地震に対する意識の高い方で地震予知に関する

研究もされていました。  
そこで比較的弱いと思われる方向2箇所に取り付けることになり外壁部のみの工事となりました。装置の取り付け構造板の上の部分は既存の杭にボルトにて繋結し、下の部分は既存の土台と繋結されています、取り付けた装置を外壁で囲つて終了です。